

ほり ろっぺい

「わさび一ず」主宰 堀 六平さん (67歳)

「長野で知らない人はいない」という地元出身ベテラン歌手。40年間変わらず「義理人情」「自然」をテーマに歌い続けてきた理由はその故郷・長野にあった！

♡
NAGANO
HAPPY
PEOPLE

長野は魅力がありすぎて40年間かけても歌いきれないよ



高校時代、同級生とともにフォークグループ「わさび一ず」結成。1973年NHK主催のオーディションに1位で合格、メジャーデビューを果たす。現在は歌手のほかラジオパーソナリティ、食農エッセイストとして幅広く活躍中

フ オークグループ、わさび一ずを主宰し数えきれないほど故郷を題材に歌い

続けてきたそのフォーク魂とは？
堀 高校時代に歌を始めたのは、当時がフォークソングブームだったのもあるんだけど、自然や義理人情をテーマにした歌じゃなきゃいけないって衝動に駆られたからなんだよね。というのも、当時は高度経済成長に日本が向かっていく中で環境汚染が問題になっててね。俺の故郷の安曇野でさえ、水が汚れてわさびが枯れちゃうようになっちゃってさ。それと同時に人の心もなんだか壊れていくような気がしてね……。それで作ったのが「信濃の人とお茶の話」という故郷の歌なんだよ。

—その歌で受けたNHKのオーディションで1位を獲得し、メジャーデビューをされたと。

堀 まあ東京では売れなかったけ

どね(笑)。俺は田舎っぺソングばかり歌って、売れるような愛だの恋だのは歌わなかったから。それでも「故郷のことを思い出しました」と言ってくれる人はたくさんいたよ。その後、戻ってからも長野をテーマにした歌を作り続けてるけど、40年たっても全部歌にしきれないくらい長野は魅力が多いんだよね。とにかく自然が最高で土や花のにおいを感じられるんだ。それに空気が最高！

—水もすごいキレイですよ。

堀 だから酒もうまい！ 歌にしたい素材がありすぎるんだ。俺は今、うたごえ喫茶ってお年寄り相手の教室もやってるけど、みんなよく歌うし元気だよ。県歌はもちろん、童謡・唱歌もたくさんあるし、みんな歌うのが大好きなんじゃないかな。暮らしてるだけで歌が生まれてくる土地が一番合ってるし、長生きの秘訣じゃないかね。